

目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する方々へ	2
聖書テキスト	4
2016年のテーマの解説	5
2016年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備	10
エキュメニカル礼拝	11
初めに	11
礼拝式文	12
八日間の聖書の黙想と祈り	19
ラトビアのエキュメニズムの現状	35
キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年	40
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968-2016年）	41

キリスト教一致祈祷週間を準備する方々へ

一致を求めて——年間を通じて

キリスト教一致祈祷週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソンによって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日と聖パウロの祝日を結ぶ期間です。すなわち、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の主日）前後に変更する地方もあります（1926年に信仰職制運動により提案された日程）。この日も、教会の一致のために象徴的で意義深い日です。

このように日程については柔軟性があることをご配慮ください。諸教派がすでに与えられている交わりを表現し、キリストの御心である完全な一致を求めて共に祈るために、この資料が年間を通じて用いられるよう願っています。

各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は次のような認識のもとに作成されています。この資料は、各地域の状況に合わせていつでも用いることができます。その場合、各地の典礼や礼拝の形式と、社会的・文化的状況に応じて実施されることが適切です。そのためには、諸教派が協力して実行するようなエキュメニカルな企画が必要です。エキュメニカルな機関がすでに設けられている地域もありますが、そうでない地域では、この企画が契機となって、そのような機関・組織ができればよいと願っています。

キリスト教一致祈祷週間資料の使い方

- * 教会やキリスト教共同体の団体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- * 教会やキリスト教共同体の団体は、それぞれの礼拝の中に、この資料を導

入して用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間の聖書の黙想と祈り」、付加された他の祈りを、それぞれの状況に応じて用いることができます。

- * 一週間を通して祈り、その週の各曜日に礼拝を行う共同体は、その礼拝の資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。
- * キリスト教一致祈祷週間のテーマについての聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や考察を基礎資料として使うことができます。また、日々のディスカッションは、執り成しの祈りで締めくくることができます。
- * 一人で祈りたい人も、自分の祈りの意向に集中するためにこの資料を役立てることができます。それを用いることによって、自分たちが、キリストの教会を目に見える形でさらに一致させるために祈っている世界中の人々との交わりの内にあることを忘れずにいられるでしょう。

2016年キリスト教一致祈禱週間

聖書テキスト

ペトロの第一の手紙、2章9-10節

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださったかたの力あるわざを、あなたがたが広く伝えるためなのです。あなたがたは、「かつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、あわれみを受けなかったが、今はあわれみを受けている」のです。

2016年のテーマの解説

主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて
(一ペトロ2・9参照)

背景

ラトビア共和国にある最も古い洗礼盤は、この国の偉大な司教、聖マインハルトの時代のもので、それは、元々はイクスカイル大聖堂にあったのですが、今日では、首都リガにあるルーテル派の教会の中央にあります。この洗礼盤は装飾された説教壇の近くに置かれています。この配置は、洗礼（バプテスマ）と宣言の関係を見事に表わすと同時に、洗礼を受けたすべての人は「主の力あるわざを広く伝える」ように招かれていることを雄弁に物語っています。この招きから、2016年キリスト教一致祈祷週間のテーマが生まれました。ラトビアのさまざまな教派の代表が、ペトロの第一の手紙に記された二つの節のみことばに導かれつつ、一致祈祷週間ためにこの冊子を準備しました。

考古学上の資料は、10世紀に東方正教会の宣教師によって東ラトビアにはじめてキリスト教がもたらされた可能性を示唆しています。しかし、多くの資料には、ラトビアにおけるキリスト教の起源は、聖マインハルトとその後継者のドイツ人宣教師らによる12～13世紀の宣教活動であると記されています。首都リガは、16世紀にルターの考えを取り入れた最初の都市の一つです。また、18世紀には、モラビア教会の宣教師たち（ヘルンフッツ宣教団）がラトビア全土の信仰を復興させ、さらに深めました。その子孫は、1918年の国家独立のための基盤を築く際に、中心的な役割を果たしました。

対立と苦難を何度も重ねた歴史は、今日のラトビアの教会の信仰に大きな影響を与えています。初期の宣教師や十字軍による武力行使により、福音の本質が誤った形で伝えられたことは、悲しい事実です。何世紀にもわたって、ラトビアの地は、宗教的にも政治的にも様々な国家、宗教勢力間の戦場になってきました。さまざまな地域で、政治的支配の変化が、たびたび人々の信仰の教派

上の所属にも変化をもたらしました。今日、ラトビアはカトリック教会とプロテスタント教会、東方正教会が交わる十字路になっています。このように特異な場に位置するラトビアは、さまざまな伝統を持つキリスト者の故郷となっていますが、支配的な教派は一つもありません。

第一次世界大戦及び、ロシア帝国とドイツ帝国の崩壊により、ラトビアは1918年から1940年にかけて初めて独立国家となりました。第二次世界大戦と、非キリスト教的な全体主義的イデオロギー——ナチズムと共産主義という無神論——以降の数十年の間に、ラトビアの国土と人々は荒廃し、1991年にソビエト連邦が崩壊するまでその荒廃は続きました。そうした年月の中で、キリスト者は、共に福音をあかしするために——時には殉教するほどに——結束しました。スロスカン司教記念館には、こうした共通の体験が記録されています。また、東方正教会、ルーテル教会、バプテスト教会、カトリック教会の殉教者のリストも掲げられています。ラトビアのキリスト者は、イエス・キリストへの信仰のために拷問や追放に耐え、いのちを失うことを通して、聖ペトロが言うところの「王の系統を引く祭司職」に自分も参与していることを見いだしました。この苦しみのきずなによって、彼らの間に深い交わりが生まれました。そして、彼らは自分たちが洗礼によって祭司職を与えられたことを知りました。つまり、他の人々の幸せのために、イエスの苦しみと一つになって自分たちの苦しみを差し出すことができたのです。

国歌「神がラトビアを祝福してくださいように」などを共に歌い、祈る体験は、ラトビアが1991年に独立を再び勝ち取るために欠かせない体験でした。町中の多くの教会で自由を求める熱い祈りがささげられました。非武装の一般市民が、歌と祈りのうちに一つになり、ソ連の戦車を阻止するためにリガの路上で肩を組んでバリケードを作りました。

しかし、20世紀における全体主義の暗闇により、多くの人々が、父なる神、神の自己啓示であるイエス・キリスト、そしていのちの与え主である聖霊の真理から離れてしまいました。ソ連崩壊後の時代は、幸いにも諸教派の再生の時代となりました。多くのキリスト者が、小グループで祈るために、またエキュメニカル礼拝のために集まっています。彼らは、キリストの光と恵みがまだラト

ビアの全国民に行き渡らず、人々を変えていないことを認識しつつ、ラトビアの社会を今もむしばんでいる歴史的、民族的、思想的な傷をいやすために、共に働き、祈りたいと望んでいます。

神の民になるよう招く呼びかけ

聖ペトロは、初代教会に次のように告げています。福音に出会う前、意義を探し求めていた彼らは、一つの民ではなかったと。しかし、神によって選ばれた民となるよう求める呼びかけを聞き、イエス・キリストにおける神の救いの力を受け入れることにより、彼らは「神の民」になります。このことは、キリスト者が皆、体験する洗礼のうちに表れます。洗礼によって、わたしたちは水と聖霊により新たに生まれます（ヨハネ3・5参照）。洗礼のうちに、わたしたちは罪に対して死にます。それは、神の恵みに満ちた新しいのちに向けて、キリストと共に生きるためです。キリストにおけるこの新しいアイデンティティーを日々、自覚し続けることが、わたしたちの課題です。

- 「神の民」であるよう求める、わたしたちに共通する招きをどのように理解したらよいのでしょうか？
- 洗礼によって受けた「王の系統を引く祭司」というアイデンティティーを、どのように表現しますか？

神の力あるわざを聞く

洗礼は、わくわくするような新しい信仰の旅の始まりです。洗礼は、どの時代にも、新しいキリスト者を神の民に結びつけてきました。神のことば——あらゆる教派のキリスト者が祈り、学び、黙想する聖書——は、たとえ交わりが不完全であったとしても、真の交りの基盤です。聖書の中の聖なることばの内に、わたしたちは救いの歴史における神の救いのわざを聞きます。神はエジプトで奴隷となったご自分の民を導き出しました。そして、イエスを死者の中か

ら復活させるという、神の偉大な「力あるわざ」が語られます。そのわざにより、わたしたちは皆、新しいいのちへと開かれました。また、キリスト者は、祈りの内に聖書を読むことにより、自分自身の人生にも神の力あるわざが働いていることを感じられるようになります。

- どのように神の「力あるわざ」を理解し、応えますか。礼拝し、歌うことでしょうか。正義と平和のために働くことでしょうか。
- わたしたちをより重要な一致と使命へと招く、生きたことばである聖書をどのように大切にしたらよいでしょうか。

応答と宣言

神はわたしたちを特権のある者として選んだものではありません。神は、キリスト者が他の人よりも道徳にかなっているから、聖なる者にするわけではありません。神はある目的を実現するためにわたしたちをお選びになりました。神は、つねにあらゆる人にご自分の愛を与えておられます。神のその奉仕のために働く限り、わたしたちは聖なる者です。祭司職を行うということは、この世のために仕えることを意味します。キリスト者は、洗礼によって与えられたこの召命を生き、神の力あるわざをあらゆる方法であかしするのです。

[傷をいやす] 戦争、紛争、虐待は、ラトビアと他の多くの国の人々の心と人間関係を傷つけてきました。わたしたちは神の恵みに助けられ、和解といやしを阻む障害のためにゆるしを求め、聖性のうちに成長します。

[真理と一致を求める] わたしたちはキリストのもとに共通のアイデンティティを持っていて、そのことを自覚することにより、わたしたちはいまだにキリスト者を分裂させている問題を解決するために働くよう促されます。エマオに行く途上の弟子たちのように、それぞれの経験を分かち合い、イエス・キリストが自分たちの巡礼の道を共に歩んでおられることに気づくよう招かれるのです。

[人間の尊厳を守るために積極的に働く] 暗闇から神の国のまばゆい光へと導かれたキリスト者は、すべての人のいのちに素晴らしい尊厳があることを知っています。わたしたちは社会活動や慈善事業を共に行うことによって、貧しい人々、困窮している人々、依存症の人々、疎外されている人々に手を差し伸べます。

- キリスト教一致に向けて尽力するにあたり、わたしたちは何のためにゆるしを求めるべきでしょうか。
- 神のいつくしみを知っているわたしたちは、どのように他のキリスト者と共に社会活動や慈善事業を行ったらよいでしょうか。

その他の要素の説明

エキュメニカル礼拝では、火が灯されたろうそくと塩という聖書的な象徴が用いられます。それらは、洗礼を受けたキリスト者として、わたしたちがこの世に伝えるべき「力あるわざ」を目に見える形で表わしています。塩と光は両方とも、イエスが山上の説教（マタイ5・13－16参照）で用いた福音の象徴です。わたしたちキリスト者のアイデンティティーは、次のように描かれています。「あなたがたは塩である……あなたがたは光である」そして、わたしたちの使命が示されます。「あなたがたは地の塩である。……あなたがたは世の光である。」

塩と光は、キリスト者が現代人に差し出すべきものの象徴です。わたしたちは、神のことばによって、味気なく空虚になりがちな生活に風味を付けます。そして、自分自身と周囲の世界を見て理解できるよう、人々を導き、助ける、いつくしみ深いことばを届けるのです。

ラトビアのさまざまなエキュメニカル活動の代表者は、このテーマと自分たちの活動体験について考える必要がありました。彼らの考察は、「八日間の聖書の黙想と祈り」の基盤となっています。

2016年キリスト教一致祈禱週間の資料の準備

今年のキリスト教一致祈禱週間の資料の準備作業は、ラトビアのさまざまな部門の代表によって形成されたグループが行いました。彼らはカトリック教会のリガ大司教区のズビギネフ・スタンケビク大司教の招きを受けて集まりました。

特に以下の方々に感謝の意を表したいと思います。

アンナ・ドン (ルーテル)

レビ・イバス・グラウディンス (ラトビア祈りの家)

ザンナ・ハーマン (パーティカレ・テレビ局, 主日の朝のキリスト教放送)

ニルス・ジャンソン (シュマン・ヌフ共同体)

シスター・リタ・レファロ(プロ・サンクティタテ運動)

ベルタ・スクールメスティレ (リガ大司教区、カトリック・ユースセンター)

グンタ・ジエメレ (リガ大司教区、カトリック・ユースセンター)

この冊子の内容は、世界教会協議会(WCC)信仰職制委員会と教皇庁キリスト教一致推進評議会(PCPCU)により指名された国際委員会の会議で確定されました。2014年9月、国際委員会のメンバーは、ラトビアの諸教派の代表とリガ神学校で会議を行いました。彼らは、この会議の主催者であるポール・クラビン氏と、神学校のスタッフと学生の温かいもてなしに感謝するとともに、会議運営に携わったアイバル・リーチス師とカーリス・ミケルソン師にもとりわけ感謝の意を表しました。会議参加者は、イクスカイル近郊、ダウガヴァ川の聖マインハルト島にある、1186年に献堂された最初の教会、ルーテル教会とカトリック教会の大聖堂、さらにはリガ旧市街にある聖公会の救世主教会に案内され、説明を受けました。こうした訪問は、この冊子の作成に非常に役立ちました。

エキュメニカル礼拝

初めに

ラトビアの作業グループは、それぞれの教会の代表が、聖書、火が灯されたろうそく（復活のろうそくでも良い）、塩が入った器を持って入堂し、それらが異なる会衆によって備えられるよう提案しています。聖書は、朗読台に置かれ、塩とろうそくは、神のことばの象徴として朗読台の脇に置かれるか、もしくは洗礼への呼びかけの象徴として洗礼盤の脇に置かれます。

また、小さなろうそくの入ったかごも内陣に置き、説教の後に会衆が、礼拝の最初に灯された炎から自分のろうそくに火を灯せるようにします。

聖歌については特に指定はありませんが、ラトビアの作業グループは、三位一体の賛美歌を歌うことを提案しています。また、応唱として「キリエ・エレイソン」、「クリステ・エレイソン」と唱えることも提案しています。ことばの典礼の間に会衆が唱える短い応唱も、式文の中に示されています。聖書朗読への導入部には、「愛の爆発」という表現が用いられていますが、それはプロ・サンクティタテ運動の創始者、グリエルモ・ギアキンタ司教の影響を受けたものです。この運動はラトビアで盛んに行われており、この礼拝の準備にもそのメンバーが貢献しています。

礼拝の終了後

ラトビアにおいて、もてなしの象徴はパン、とりわけ黒パンです。誰かが新居に引っ越すと、その友人は、祝福のしるしとして、塩で十字をあしらったパンをよくプレゼントします。ラトビアの作業グループは、礼拝が終わった後の分かち合いの時間に、こうしたもてなしに倣うよう、世界中のキリスト者を招いています。

礼 拝 式 文

主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて
(一ペトロ2・9参照)

I 開会

入堂の賛美歌

司式者らが聖書、灯り、塩を持って入堂する。

あいさつ

司式者：キリストにおいて友である皆さん。わたしたちはこの一致祈禱礼拝のために集い、キリスト者としての尊厳と召命を神に感謝します。聖ペトロも次のように語っています。「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それはあなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力あるわざを、あなたがたが広く伝えるためなのです。」今年はこの礼拝を準備してくださったラトビアのキリスト者と共に祈ります。彼らは、わたしたちが主イエス・キリストとの交わりと、一致を切望するすべての兄弟姉妹との交わりの内に成長するよう望んでいます
(一ペトロ2・9参照)。

II 聖霊への祈り

司式者：聖霊、御子イエス・キリストを通してもたらされる御父のたまもの、わたしたちの内に留まり、わたしたちの心を開き、あなたの声が聞けるように助けてください。

全 員：聖霊、わたしたちのもとに来てください。

司式者：神の愛であり一致と聖性の源である聖霊、御父の愛をわたしたちにお示してください。

全 員：聖霊、わたしたちのもとに来てください。

司式者：愛の炎である聖霊、わたしたちを清め、わたしたちの心、わたしたちの共同体、そして世界にあるすべての壁を取り除き、イエスのみ名においてわたしたちを一つにしてください。

全 員：聖霊、わたしたちのもとに来てください。

司式者：聖霊、イエスへのわたしたちの信仰を強めてください。まことの神、まことの人であるイエスは、分裂というわたしたちの罪を十字架につけ、ご自分の復活のうちにわたしたちを交わりへと導いてくださいました。

全 員：聖霊、わたしたちのもとに来てください。

司式者：父と子と聖霊、わたしたちのもとに留まり、愛と聖性の交わりにあずからせてください。あなたのうちに、わたしたちを一つにしてください。あなたは永遠に生き、支配しておられます。

全 員：アーメン。

賛美の歌

Ⅲ 和解の祈り

司式者：神はわたしたちを和解と聖性へと招いておられます。わたしたちの思いと心、からだを、聖性への歩みの中で和解の恵みを受けることに向けましょう。

沈黙

司式者：主よ、あなたは、ご自分の似姿としてわたしたちをお造りになりました。わたしたちが、あなたから与えられた自分の本性とこの世を大切にし

ないときも、わたしたちをおゆるしてください。キリエ・エレイソン。

全 員：キリエ・エレイソン。

司式者：イエスよ、あなたは、天の御父が完全であるように、わたしたちも完全になるよう招いておられます。わたしたちが聖なる者にも完全な民にもなれない時も、また人間の権利と尊厳を尊ぶことができない時も、わたしたちをおゆるしてください。クリステ・エレイソン。

全 員：クリステ・エレイソン。

司式者：いのちと平和と正義の主よ、わたしたちが、死と戦争と不正義の文化を伝える時も、また愛の文化を築けない時も、わたしたちをおゆるしてください。キリエ・エレイソン。

全 員：キリエ・エレイソン。

司式者：いつくしみ深い神よ、あなたの恵みと聖性でわたしたちを満たし、どこに行っても愛の使徒になれるようにしてください。わたしたちの主イエス・キリストによって、祈ります。

全 員：アーメン。

IV みことばの宣言

朗読者：これから聞くみことばは、わたしたちの生活における愛の爆発です。
聞きなさい。そうすれば、いのちを得るでしょう。

全 員：神に感謝。

イザヤ書 55章1—3節

朗読者：聞きなさい。そうすれば、いのちを得るでしょう。

全 員：神に感謝。

詩編 145 8—9,15—16,17—18節

朗読者：あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

全 員：あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

朗読者：主は恵みに富み、あわれみ深く、忍耐強く、いつくしみに満ちておられます。

主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものをあわれんでくださいます。

全 員：あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

朗読者：皆があなたに目を注いで待ち望むと、

あなたはときに応じて食べ物をご提供くださいます。

すべてのいのちあるものに向かって御手を開き、望みを満足させてくださいます。

全 員：あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

朗読者：主の道はことごとく正しく、みわざはいつくしみを示しています。

主は、ご自分を呼ぶ人すべての近くにおられ、まことをもって呼ぶ人すべての近くにおられます。

全 員：あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

ペトロの第一の手紙2章9-10節

朗読者：聞きなさい。そうすれば、いのちを得るでしょう。

全 員：神に感謝。

マタイによる福音書5章1-16節

朗読者：聞きなさい。そうすれば、いのちを得るでしょう。

全 員：神に感謝。

説教

V 塩と光となるために

司式者は会衆に次のように呼びかける。

司式者：わたしたちは今、聖書のことばを聞きました。わたしたちが誇りとし、大切にしている聖書のことばです。そして、みことばという一つの食卓で共に養われました。わたしたちは、この聖なるみことばをこの世に伝えます。わたしたちは地の塩、世の光となり、主の力あるわざを告げ知らせるという一つの使命を共有しているからです。

この使命を分かち合うしるしとして、塩を少し、手に取って味わい、この一つの炎から各々のろうそくに火をつけたいかたは、どうか前に進み出てください。礼拝の終わりまで、火を灯し続けていただければと思います。

VI 希望の祈り

司式者：神の子として、わたしたち自身の尊厳と使命を認識しながら祈りましょう。そして、神の聖なる民になりたいという願いを確かなものにしましょう。

沈黙

司式者：いつくしみ深い父よ、わたしたちの心、わたしたちの家族、そしてわたしたちの共同体を変えてください。

全 員：あなたのすべての民を聖なる者にし、キリストにおいて一つにしてください。

司式者：いのちの水よ、わたしたちの社会にある渇きを潤し、尊厳と愛、交わり、聖性を求める渇きを潤してください。

全 員：あなたのすべての民を聖なる者にし、キリストにおいて一つにしてく

ださい。

司式者：喜びと平和の霊である聖霊、権力と金銭を誤って用いることによって生じた分裂をいやしてください。そして、文化と言葉の違いを超えて、わたしたちを和解させてください。神の子として、わたしたちを一つにしてください。

全 員：あなたのすべての民を聖なる者にし、キリストにおいて一つにしてください。

司式者：愛である三位一体の神よ、暗闇からあなたのまばゆい光の中へと導いてください。

全 員：あなたのすべての民を聖なる者にし、キリストにおいて一つにしてください。

司式者：主イエス・キリスト、洗礼によってあなたと結ばれたわたしたちは、あなたが
教えてくださったことばと自分たちの祈りを結び合わせます。

全 員：天におられるわたしたちの父よ、……（主の祈り）。

Ⅶ 平和のあいさつ

司式者：主イエスは言われます。

あなたがたは地の塩である。

あなたがたは世の光である。

あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。

人々が、あなたがたの立派な行いを見て、

あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

地の塩となりなさい。

世の光となりなさい。

司式者：主の平和が、いつも皆さんと共に。

全 員：また、あなたと共に。

司式者：互いに平和のあいさつを交わしましょう。

VIII 祝福と派遣

司式者：心の貧しい人々は幸いです。

悲しむ人々は幸いです。

柔和な人々は幸いです。

あわれみ深い人々は幸いです。

心の清い人々は幸いです。

平和を実現する人々は幸いです。

迫害される人々は幸いです。

神である父と子と聖霊の祝福が、皆さんの上にありますように。

全 員：アーメン。

司式者：行きましょう。キリストの平和の内に。

全 員：アーメン。

八日間の聖書の黙想と祈り

第1日 石を取り除きなさい

- エゼキエル37・12-14 わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げる。
- 詩編71・18b-23 神よ、み腕のわざは、力強いみわざは高い天に広がっています。
- ローマ8・15-21 キリストとともに苦しむなら、ともにその栄光をも受けるからです。
- マタイ28・1-10 あのかたはここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。

解説

この解説は、リガ大司教区のカトリック・ユースセンターが、「キリスト教一致のための十字架の道行」(ラトビアの人々の生活に強い影響を与えるエキュメニカルな年間行事)を主催した際の体験に基づいています。その体験は、ラトビアにおいて受難と復活は何を意味するのか、洗礼を受けたキリスト者が告げ知らせるべき主の力強いわざとは何なのかについて考えるよう促しています。

- ソ連占領下のラトビアの歴史は、国民の上に影を落とし続けています。人々は今でも深い悲しみ、痛みと、いやし難い傷を抱えています。それらすべてが、まるでイエスの墓の入り口をふさいでいた大きな石のようです。こうした傷により、わたしたちは心の墓の中に閉じこもっているのです。
- しかし、もしわたしたちの苦しみや痛みが主の痛みと結ばれるなら、墓の

中に閉じこもってなどいられません。主の復活の地震により、わたしたちの墓の入り口は開き、わたしたちは互いを隔てていた苦しみと怒りから解放されます。

- これこそが主の力強いわざです。主の愛が地を揺らし、石をわきに転がし、わたしたちを解放し、新しい日の朝へと招きます。この夜明けに、わたしたちは、投獄されて傷ついた兄弟姉妹と再び結ばれます。そして、マグダラのマリアのように大いに喜び、主がなさったことを他の人に伝えるために「急いで走って行く」にちがひありません。

問い

- どんな出来事や生活状況、環境のために、わたしたちは悲しみや嘆き、悩み、不安、絶望のうちに自ら墓の中に閉じこもってしまうのでしょうか。キリストの復活の約束と喜びを受け入れることからわたしたちを遠ざけているのは何でしょうか。
- わたしたちは、これから出会う人々と信仰体験を分かち合う準備がどれほど出来ているのでしょうか。

祈り

主イエスよ、

あなたは初めからわたしたちをいつも愛してくださいます。

そして、わたしたちのために十字架にかけられて死ぬことのうちに、

あなたの愛の深さを示し、

わたしたちの苦しみと傷を分かち合ってください。

今、わたしたちはあなたの愛から自分を遠ざけているものをすべて、

あなたの十字架のもとに置きます。

わたしたちを閉じ込めている石を取り除いてください。

あなたの復活の朝を、わたしたちの中に呼び覚ましてください。

そのとき、わたしたちが別れた兄弟姉妹と出会うことができますように。

アーメン。

第2日 喜びの使者となるよう招かれて

- イザヤ61・1-4 主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。
- 詩編133 見よ、兄弟がともに座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。
- フィリピ2・1-5 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。
- ヨハネ15・9-12 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内であり、あなたがたの喜びが満たされるためである。

解説

ソ連占領下のラトビアでは、公にキリスト教に関する報道をすることはできませんでした。独立後、ラトビア国営ラジオ放送は、一致と宣教をテーマとしたキリスト教の番組を開始し、さまざまな教会のリーダーによるフォーラムが誕生しました。このように公共の機関が互いに尊重し、愛し、喜び合うことをあかしたことにより、ラトビアのエキュメニカルな精神は高められました。この解説には、ラトビア国営ラジオのキリスト教プログラム作成時の体験が反映されています。

- 「主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして良い知らせを伝えさせるために。キリスト者は、福音の喜びのうち、この預言者イザヤのことばを生きるよう招かれています。わたしたちは、傷ついた心をいやし、わたしたちを縛りつけ、捕えていたすべてのものを解き放ってくれる、よい知らせを待ち望んでいます。

- 苦しみにうちひしがれている時には、イエスから与えられた喜びを知らせる力が持てないかもしれません。たとえ誰にも何も差し出せなくとも、持っているわずかなものによってあかしすることにより、イエスは、わたしたち自身と周囲の人々の中で、そのわずかなものを増やしてくださいます。
- イエスは福音の中で次のように語っています。「父がわたしを愛したように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」わたしたちはこのように、イエスの喜びを自分自身の中に見いだし、喜びに満たされます。互いに愛し合い、喜び合うことが、一致にむけたわたしたちの祈りの中心です。詩編作者も「見よ、兄弟がともに座っている。なんとという恵み、なんとという喜び」と唱えています。

問い

- 世界と教会の中で喜びを妨げているのは、何でしょうか。
- イエスの喜びにあずかり、福音のあかしびととなるために、わたしたちは他のキリスト者から何を受けることができるでしょうか。

祈り

愛である神よ、

心が貧しく、限られた力しかなくても、

あなたに仕えたいと願うわたしたちの心を見つめてください。

あなたが愛してくださるように、わたしたちも愛せるように、

わたしたちの傷ついた心をあなたのいやしの愛で包んでください。

喜びをもってあなたに仕え、あなたの愛をすべての人と分かち合えるように、

一致のたまものをお与えください。

あなたの子、主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。

アーメン。

第3日 兄弟愛のあかし

- エレミヤ31・10-13
詩編122
一ヨハネ4・16b-21
ヨハネ17・20-23
- 彼らは喜び歌いながらシオンの丘に来る。
エルサレムの平和を求めよう。あなたを愛する人々に平安があるように。
「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。
すべての人を一つにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

解説

ラトビアでは、ここ十数年間、シュマン・ヌフ共同体というキリスト教一致を召命とする国際的なカトリックの共同体が活動しています。この共同体のメンバーは、カトリック教会とルーテル教会の信者です。彼らは、キリストのもとに交わることの喜びと、分裂の痛みをともに感じています。そして、晩の祈りには、空の聖体皿（パテナ）と聖杯（カリス）を、分裂のしるしとして祭壇に置いています。この解説は、彼らの体験から着想を得ています。

- キリスト者の分離は、福音宣教の妨げになります。わたしたちの間の愛が完全でなければ、世間はわたしたちがイエスの弟子であることを信じられません。交わりの秘跡であるミサにおいて、キリストのからだと血をともに受けられないとき、わたしたちはその分裂の痛みを感じます。
- わたしたちの喜びの源は、キリストのうちに共に生きることです。兄弟愛のうちに日々を過ごすことは、さまざまな教派の信者とともに受け入れ合い、愛し、仕え、祈り、あかしすることを意味します。それは聖霊によって与えられる貴重な真珠です。

- イエスは死を迎える前夜に、わたしたちが一つになり、愛し合うよう祈り求めました。今日、わたしたちは手を上げ、イエスとともにキリスト者の一致のために祈ります。そして、すべての教会の司教と司牧者、信者のために祈ります。一致の道を歩むわたしたちすべてを、聖霊が導いてくださいますように。

問い

- 他の教派のキリスト者を、どのように見えていますか。彼らに対する先入観について、ゆるしを乞うことができますか。
- キリスト者の分裂を和らげるために、各自で何ができるでしょうか。

祈り

わたしたちが皆、一つになるよう祈ってくださった主イエスよ、
あなたのみ旨と力のままに、キリスト者の一致のために祈ります。
あなたの霊によって、
わたしたちが分裂による苦しみを感じ、
自らの罪を認め、
あらゆる希望を超えた希望を抱くことができますように。
アーメン。

第4日 福音を告げるよう招かれる祭司職の民

- 創世記17・1-8 あなたはアブラハムと名乗りなさい。あなたを多くの国民の父とするからである。
- 詩編145・8-12 主は恵みに富み、あわれみ深く、忍耐強く、いつくしみに満ちておられます。
- ローマ10・14-15 聞いたことのないかたを、どうして信じられよう。
- マタイ13・3-9 ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

解説

この解説は、「バルティカレ」という日曜の朝のキリスト教テレビ番組の制作者からインスピレーションを受けました。その番組作成者は、このキリスト教番組をラトビア国営放送で放映し続けるという課題に直面する中で、次のことを学びました。それは、他の教派の信者を兄弟姉妹として認めるときにはじめて、公共の場でみことばを伝えられるということです。

- 現代社会では、これまで以上に家庭の中にことばが氾濫しています。会話だけでなく、テレビ、ラジオ、そして今ではソーシャル・メディアからも、家庭にことばが流れ込みます。これらのことばには、作る力も壊す力もあります。しかし、そうしたことばの大半は無意味なように思われます。それらは栄養というよりは、気晴らしのためのものです。
- この意味もなく広がることばの海におぼれる人もいるかもしれません。しかし、わたしたちは救いのみことばを聞きました。みことばが命綱として投げかけられました。みことばはわたしたちに交わるよう呼びかけ、みことばを聞いた他の人々と一つになるよう招いています。わたしたちは、か

つては一つの民ではありませんでしたが、今は神の民です。

- わたしたちはさらに、祭司職にあずかる民でもあります。みことばを受けた他の人々と一つになるとき、わたしたちが発することばは、もはや海に消え失せるただの水滴ではありません。今、わたしたちには伝えるべき力強いみことばがあります。そして、一つになって、「神は救う (Yeshua)」と力強く唱えることができるのです。

問い

- どんな個人的な野望、競争心、他のキリスト者への誤解、怒りが、わたしたちの福音宣教を阻んでいるのでしょうか。
- どのような人が、わたしたちからいのちを与えることばを聞くのでしょうか。

祈り

主イエス、

あなたは、もしわたしたちの間に愛があれば、

あなたの弟子であることを皆が知るようになるとおっしゃいました。

あなたの恵みに力づけられ、

あなたの教会を目に見える形で一致させるために、

たゆみなく働くことができますように。

そして、わたしたちが告げ知らせよう招かれている福音が、

わたしたちのあらゆることばと行いに表れますように。

アーメン。

第5日 使徒の交わり

イザヤ56・6-8	わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。
詩編24	どのような人が、主の山に上るのか。
使徒言行録2・37-42	彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。
ヨハネ13・34-35	あなたがたに新しいおきてを与える。互いに愛し合いなさい。

解説

ラトビアでは、エキュメニカルな生活が教会指導者の交わりの中に実現しています。彼らはラトビアの最高峰、ガイジンシュ山や他の地域に定期的集い、40時間、祈りをささげ、食事を共にしながら、素朴な交わりを深めています。この集いは、絶え間ない信者の祈りと礼拝に支えられ、継続しています。こうした出会いにより、教会指導者は、キリストのうちに共に働く者として新たにされます。この解説は、「あらゆる民のためのラトビア祈りの家」の創設者の体験からインスピレーションを受けています。

- 互いに愛し合いなさいというイエスの命令は、ことばだけのものではありません。わたしたちが、聖霊の力のうちに親交を深め、ともに祈るためにキリストの弟子としてすすんで集うとき、わたしたちの兄弟愛は具体的なものになります。
- キリスト者、とりわけ教会指導者が共に、謙遜と忍耐のうちにキリストと出会うほど、偏見がなくなります。また、互いのうちにキリストを見いだすほど、わたしたちはみ国のさらに真正なあかし人になります。
- エキュメニズムは、ときに非常に複雑に思えるかもしれませんが、しかし、楽しく交わり、食事を共にし、一緒に祈り、礼拝することが、使徒的単純

性を示す方法です。わたしたちはそうした行いの内に、互いに愛し合いなさいという命令に従い、一致を求めるキリストの祈りに対して「アーメン」と答えるのです。

問い

- キリストとして交わり、食事を共にし、一緒に祈ることを通して、わたしたちが互いに出会うというのは、どのような体験でしょうか。
- 教会を目に見える形で一つにするための道のりにおいて、司教や他の教会指導者に何を期待しますか。どのように彼らを支え、力づけますか。

祈り

わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父よ。

すべてのキリスト者、あなたの教会で指導的役割を託された人々に、

知恵と啓示の霊をお与えください。

あなたが招いておられる希望を

心の目で見ることができるようになるためです。

からだは一つ、霊は一つ、

主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ。

すべてのものの父である神は、唯一であり、

すべてのものの上におられ、すべてのものを通して働き、

すべてのものの内におられます。

アーメン。

第6日 聞いてください。こんな夢を見ました。

創世記37・5-8	聞いてください。わたしはこんな夢を見ました。
詩編126	わたしたちは夢を見ている人ようになった。
ローマ12・9-13	兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。
ヨハネ21・25	世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。

解説

キリスト者の分裂は痛みを与えます。教会は、主の食卓の前で一つの家族になれない無力さに苦しんでいます。教会は競争や闘いの歴史によって苦しみます。2005年に発行されたエキュメニカル冊子、「何がわたしたちを一つにするのか (Kas Mus Vieno?)」の中に、分裂に対する一つの対応が示されています。この冊子を発行する際の体験が、この解説の背景となっています。

- ヨセフは、神のお告げとして、ある夢を見ます。しかしヨセフがその夢のことを兄弟たちに伝えると、彼らは怒りと暴力をもって応えます。その夢は、彼らがヨセフにひれ伏すことを暗示していたからです。結局、兄弟たちは飢餓によりエジプトに行き、ヨセフにひれ伏します。しかしそれは、彼らが恐れていたような侮辱や軽蔑ではなく、和解と恵みに満ちたときでした。
- ヨセフのように、イエスは、御父のみ国に生きるというビジョン、メッセージを告げています。それは一つになるというビジョンです。しかし、わたしたちもヨセフの兄弟たちと同じように、そのビジョンとそれが暗示する事柄に対して、しばしば動揺し、怒り、恐れを抱きます。そのためには、み旨に従い、ひれ伏す必要があるからです。わたしたちは、自分が負けるかもしれないと不安になるから恐れます。しかし、それは負けるのではなく、むしろ、別れた兄弟姉妹と再会し、家族が再び一つになることです。

- 多くのエキュメニズムに関する文書が発表されています。それらの文書も大切ですが、キリスト教一致のビジョンは、合意文書だけでとらえられるものではありません。神がわたしたちに求めておられる一致、すなわち神から提示されたビジョンは、わたしたちがことばや文書によって表現できるものをはるかに越えています。そのビジョンは、わたしたちの生活の中で、また兄弟姉妹と共に行う祈りと使命のうちに肉づけされるはずのものです。それは何よりもまず、わたしたちの隣人愛のうちに実現します。

問い

- キリスト教一致を願うわたしたちの夢をキリストの足元に置くことは、何を意味するのでしょうか。
- 一致に向けた主のビジョンのために、教会は今日、どのように刷新され、変わる必要があるのでしょうか。

祈り

天におられる父よ、
あなたの声を聞き、
あなたの招きを受け入れ、
教会一致に向けたあなたの夢を分かち合うために、
へりくだる心をお与えください。
わたしたちが分裂の痛みに気づくよう助けてください。
分裂によって、心がかたくなになるとき、
あなたの霊の炎でわたしたちの心を燃やし、
キリストがあなたと一つであるように、
わたしたちもキリストのうちに一つになれるよう励ましてください。
あなたがキリストをお遣わしになったことを、
この世が信じるようになるためです。
イエスのみ名によってお願いいたします。
アーメン。

第7日 祈りのためのもてなし

イザヤ62・6-7	エルサレムよ、あなたの城壁の上にわたしは見張りを置く。昼も夜も決して黙してはならない。
詩編100	全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。喜び祝い、主に仕えよ。
一ペトロ4・7b-10	思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。
ヨハネ4・4-14	わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠のいのちに至る水がわき出る。

解説

マドナという小さな町では、キリスト者が、キリスト教一致祈禱週間の8日間、毎日共に祈ることにより互いの親交を深めています。その主な実りは、町の中心部にキリスト教一致のための祈りをささげる礼拝堂ができたことです。この礼拝堂は、ルーテル教会、カトリック教会、正教会の要素を取り入れています。マドナのキリスト者は、一日中、この礼拝堂で祈り続けています。そうした体験が、以下の解説の背景となっています。

- 神の民が分裂し、キリスト者が互いに遠ざけ合うかぎり、わたしたちはサマリアにいるイエスのようです。異国で、安全も憩いも休む場も見いだせない異邦人と同じです。
- イスラエルの民は、主を礼拝する安全な場所を探し求めていました。預言者イザヤは、主の力あるわざを伝えます。主はエルサレムの城壁の上に見張りを起き、ご自分の民が昼夜、安全に主を礼拝できるようにしました。
- 一致祈禱週間の間、教会と礼拝堂は、安全と休息と憩いに満ちた、人々が共に祈る場となります。今週の課題は、祈る場と時間を増やすことです。共に祈るほどに、わたしたちも一つの民になるからです。

問い

- 地域の教区民や会衆の間の親睦を深めるにはどうしたら良いでしょうか。
- キリスト教のさまざまな教派が共に祈るために集う場所が近所にありますか。もしなければ、そうした場所を設けるために、協力することができますか。

祈り

主イエス、

あなたは、弟子たちがあなたと共に目覚めていて、

あなたと共に祈るよう望みました。

憩いと平和を見いだすための時間と場所を、

わたしたちが世界にもたらすことができますように。

他のキリスト者と共に祈ることによって、

あなたをより深く知ることができますように。

アーメン。

第8日 一致に向けて燃える心

- イザヤ52・7-9 いかに美しいことか、山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝える。
- 詩編30 あなたはわたしの嘆きを踊りに変えてくださいました。
- コロサイ1・27-29 この秘められた計画は、異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものでしょう。その計画とは、あなたがたの内におられるキリストです。
- ルカ24・13-36 イエスは、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明された。

解説

ラトビアの諸教派は、ロンドンのプロンプトンで開発されたアルファコースを用いながら、福音宣教のために協力してきました。このプログラムを通して信仰に目覚めて人々は、他のキリスト教共同体のたまものから学び、成長することに開かれた心を持ち続けます。次の解説は、そうした体験をもとに作成されました。

- 失意のうちにエルサレムを去り、エマオに向う弟子たちは、イエスがメシア（救世主）であるという希望を失い、自らの共同体から離れて行きます。それは離れと孤立への旅です。
- しかし、彼らは、希望に満たされ、福音を唱えながらエルサレムに戻ります。彼らを共同体の中心へと、仲間との交わりへと引き戻したのは、復活のメッセージにほかなりません。

- 非常に多くのキリスト者が、自分の教会をいっぱいにするために競って福音宣教します。福音といういのちを与えるメッセージを他の人々に聞かせたいという願いより、野心のほうが勝っているのです。真の福音宣教とは、エマオからエルサレムへの歩み、つまり孤立から一致への歩みなのです。

問い

- わたしたちを人々から孤立させるのは、どのような失望ですか。
- 他のキリスト教共同体から、どんなたまもの（取り組み、方法、プログラム）を受け取ることができるでしょうか。

祈り

主イエス、

あなたはわたしたちの心を燃え立たせ、

わたしたちが福音を唱えつつ、

兄弟姉妹のもとに帰れるようにして下さいます。

希望を抱き、あなたの命令に従うことによって、

あなたの民の一致はさらに深まることを、

わたしたちに悟らせてください。

アーメン。

ラトビアのエキュメニズムの現状

I. キリスト教の諸教派

ラトビアのエキュメニズムの現状は、「生き生きとしたエキュメニズム」ということばで表現されます。さまざまな教派が、共に祈ったり、あかししたりするために、さまざまな場所や機会に何度も集っています。こうした傾向の要因の一つとして、三大教派の規模がほぼ同じであり、少数派も非常に活発であることが挙げられます。ラトビアは、カトリック教会とプロテスタント教会、正教会のいわば分岐点のようなものです。2011年に発表された公式データによると、人口の34.3%がルーテル教会、25.1%がカトリック教会、19.4%が正教会と正教会古儀式派の信者です。そして1.2%が他の教派(例えばバプテスト派、アドベンチスト派、ペンテコステ派、他の自由教会など)に属します。一方、人口の20%が他宗教信者もしくは、どの宗教にも属さない人です。ラトビアが公認している6つの伝統宗教は、ルーテル教会、カトリック教会、バプテスト教会、正教会、正教会古儀式派、ユダヤ教です。

II. 現代のエキュメニズム

ラトビアの諸教派はキリスト教協議会として結束しているわけではありませんが、エキュメニカル活動は豊かな実りを結んでいます。今日、ラトビアのキリスト者は活発に協力し合っています。多種多様な意見を持ちながらも、キリストのメッセージを現代社会に伝えているのです。教会一致に向けたラトビアの諸教派の協力と結びつきは、「主の力あるわざ」を告げ知らせることに根差していると言えます。

ラトビアでは、カトリック教会、正教会、ルーテル教会、バプテスト教会の指導者が、倫理、いのちの保護、そして社会正義に関する共同メッセージを常時、発表しています。カトリック教会の現在の司教の叙階式がルーテル教会のリガ大聖堂で行われたのは、カトリック教会とルーテル教会の指導者が兄弟のような関係にあるからです。

極めて重要な記念日や祭日（11月18日の独立記念日など）を祝う際には、諸教派の指導者が集います。みことばが告げられ、スピーチが行われ、さまざまな教派の音楽が奏でられます。ラトビア政府と諸教派によるエキュメニカルな協力態勢の一つが、宗教評議会と呼ばれる会議です。この会議には、ラトビアの伝統宗教（ユダヤ教も含む）の指導者が参加します。年に約一回開催され、首相が議長を務めます。公立学校に関しても、エキュメニカルな協力態勢は素晴らしい成果を上げています。主要4教派が協力して、教育省認可の教材を作成しています。

一方、ラトビアの諸教派の司教や主教、監督、司祭、牧師の関係は、エキュメニカルな活動の域を超えています。その関係は、純粋な友情に根差しています。彼らはこれまでの歴史の中で生じた隔壁に問題意識を抱き、共に福音に仕える者として認め合えるようになっていきます。カトリック教会とルーテル教会、バプテスト教会の指導者が、定期的集まり、友好的な雰囲気の中で共に祈り、神を賛美し、ラトビアに関する問題を話し合っています。

共同体の間にも、小教区レベルでも、エキュメニカルな協力関係が数多く存在します。例えば、アルファコースに基づく福音宣教プログラムが共同で企画されています。また、カトリック教会の幼きイエスの聖テレジア小教区とマグダラの聖マリア小教区、トルナカのリガ・ルーテル教会、アジェンカのバプテスト教会共同体が協力して、社会プロジェクトを推進し、カレンダーを発行しています。マドナの様々なキリスト教共同体は、2000年以降、キリスト教一致祈祷週間の期間中、毎日、異なる共同体で祈りをささげてきました。こうした体験を通して、多くの人々が自分の教派以外の兄弟姉妹に初めて出会います。その特別な実りとして、ラトビアで初めてエキュメニカルな礼拝堂が創設されました。この礼拝堂では、さまざまな教派の信者が祈りをささげることができます。礼拝堂の扉は昼も夜も開かれ、カトリック教会とルーテル教会の信者が交代で絶えず祈りをささげています。

教会や小教区が運営する活動以外にも、さまざまなエキュメニカル活動が意欲的な信者によって行われています。その顕著な例が、イガテという小さな村に、「洗礼者ヨハネとマグダラのマリア礼拝堂」というエキュメニカルな礼拝堂

が初めてできたことです。その建設は個人的なイニシアチブのもとに行われました。この礼拝堂は、ルーテル教会、カトリック教会、正教会、バプテスト教会というラトビアの主要4教派の信者によって利用されています。献堂式は、2013年1月18日に行われ、カトリック教会司教とルーテル教会監督とバプテスト教会牧師が礼拝堂を祝福しました。イガテの人々の祈りの意向は、とりわけ子ども、幼児、胎児、そしてその母親のために祈り、彼らを助けることに向けられています。

信者による活動のもう一つの例として、ガイジン・サミットが挙げられます。ある信徒の招きにより、ラトビアの諸教派の指導者がラトビアの最高峰であるガイジン山に集い、親交を深め、共に祈りをささげました。指導者たちはこの信徒の招きを受け入れたのです。サミット期間中、彼らは信者の絶え間ない祈りと礼拝によって支えられていました。このサミットはこれまで7回行われ、さらに多くの教会指導者が参加しています。

『何がわたしたちを一つにするのか』という雑誌が、ある信徒により、10年前から発行されています。この雑誌は、キリスト教一致を切望する願いにより生まれました。その創刊号は、キリスト教一致祈祷週間のみ焦点を当てていました。その後も、エキュメニカルなテーマを扱っています。この雑誌は、諸教派の地元の共同体に無料で配布されています。

エキュメニカルな協力態勢は、さまざまな祈りの集いや共同体の中にも見られます。例えば、「シュマン・ヌフ」、「ブルー・クロス」、「カンコラ」、「エッフエタ」、さらには教誨師などの社会活動や、「ベツレヘムいつくしみの家」と呼ばれる麻薬やアルコールの依存症患者のためのリハビリテーションセンターなどです。さまざまな教派のキリスト者が、これらすべての活動や組織の中で日々、祈りながら活動しています。彼らは手を取り合い、日々の奉仕を通して、キリスト教一致のために貢献しています。

ラトビアはキリスト教が盛んな国です。したがって家庭生活もその影響を受けます。異なる教派同士の夫婦も大勢います。彼らは教会の分裂から生じるあらゆる問題に日々、直面しなければなりません。例えば、結婚式、子どもの信仰教育、日曜礼拝への参加、そして信仰を生きるキリスト者にとって特に重要

な聖体拝領などです。

キリスト者の家庭は、国際化された現代社会の問題にも向き合います。ラトビアでは、「カナの組」と呼ばれる組織が、とりわけ家庭のために1994年から活動してきました。エキュメニカルな家庭大会が、家庭問題への意識を高め、家族を力づけるために、2006年からリガ市当局の協力のもとに開催されています。こうした取り組みは、ラトビアの主要3教派との連携のもとに、さまざまな自由教会によって支えられています。

福音宣教にとってメディアは極めて重要です。エキュメニカルな制作チームが、キリスト教番組を制作しています。そして、ラトビア国営ラジオ放送を通して、キリスト者の一致と交わりを促進する番組が定期的に放映されています。カトリック・ビデオ情報センター「エマヌエル」は、「パーティカレ」という番組を制作し、1チャンネルで放映しています。こうした番組は、何がキリスト者を分裂させるかではなく、何が一致させるかを示そうとしています。その番組プロデューサーは、正教会やカトリック教会、ルーテル教会、バプテスト教会、他のキリスト教共同体にいるキリストの証人を探しています。また、福音ラジオ局「ラトビア・キリスト教ラジオ」も、多くのエキュメニカルな番組を放送しています。

毎年、聖金曜日には、クルディガ、バルミエラ、マドナ、リエバジャを始めとするいくつかの都市の通りで、十字架の道行が行われます。リガでは、エキュメニカルな十字架の道行が、リガ大司教区のカトリック・ユースセンターにより企画され、何千人もの人々が集まります。カトリック教会だけでなく、ルーテル派、バプテスト派、ペンテコステ派や他の教派の信者が集います。各教会の司教や監督、牧師がこの行列の先頭を並んで歩きます。この道行では、通常の十字架の道行の進行に加えて、ラトビア国内のさまざまな劇場の俳優によるパフォーマンスも行われます。その俳優も、さまざまな教派の信者です。この祈りは、宗教的、霊的、そして文化的に人々を一つにします。共同の祈りと黙想を通して、すべてのキリスト者が十字架の道行の祈りの内になつていくのです。「キリスト、わたしたちはあなたを礼拝し、賛美します。あなたご自分の聖なる十字架によって世界を救ってくださいました。」

Ⅲ. エキュメニカル運動の課題

ラトビアには、エキュメニズムが発展するための確かな基盤があります。それは、群を抜いて優勢な教派がなく、エキュメニカル活動が盛んに行われているからです。一方、そうした活動は、エキュメニカルな関係を心から受け入れている比較的少数の人々によって発展していることも認めざるをえません。多くのキリスト者は無関心であり、敵意を抱いていることさえあります。

もう一つの課題は、ラトビアには諸教派間の神学的な対話のための公式な委員会がないことです。さまざまな問題により、エキュメニカルな対話が必要とされています。そうした問題に関する合意が得られれば、信者は教会一致にさらに関心を示すに違いありません。

エキュメニズムの発展は、個人的な関係や結びつきに頼り切っていると言えます。エキュメニカルな行事は、そうした関係によって成果を上げています。多くの場合、一つの教派が指導権を握っており、諸教派がその責任を共有しているわけではありません。少数の熱心な人々が、ほとんどの負担を担っています。諸教派の課題は、エキュメニカル活動の責任を平等に分ち合う方法を見いだすことです。

交わりを育む上で深刻な問題となっている最後の課題として、政治情勢によってラトビア正教会（総主教はモスクワ）の信者同士の結びつきが弱まっていることが挙げられます。したがって、その結びつきを強めるために新たな可能性を見いだす必要があります。

◇キリスト教一致祈禱週間に関する歴史上の重要な年◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいった聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820年 ジェームス・H・ スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 "Hints for the General Union of Christians for the Outpouring of the Spirit"
1840年 イグナティウス・ スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り (Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈禱についての転換の前兆となった。(1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・ クトゥリアル	フランスのポール・クトゥリアルは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈禱週間」を提唱した。
1958年 "Unité Chrétienne"	"Unité Chrétienne" (フランス、リヨン市) と WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会は、祈禱週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964年 第二バチカン 公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈禱週間の遵守を促進することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、 一致推進秘書局	WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局 (現教皇庁キリスト教一致推進評議会) は、祈禱週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致 祈禱週間	第1回「キリスト教一致祈禱週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。
1975年 地方教会による一 致祈禱週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈禱週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988年 マレーシア・キ リスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈禱週間冊子を使用。

1994年 YMCAとYWCA	YMCAとYWCAが協力して1996年キリスト教一致祈祷週間テキストを作成。
2004年 キリスト教一致 祈祷週間冊子	以後、キリスト教一致祈祷週間の冊子を、信仰職制委員会（WCC）と教皇庁キリスト教一致推進評議会（カトリック）が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008年 100周年	キリスト教一致祈祷週間開始100周年（教会一致のための八日間の祈りが1908年に初めて行われた）。

◇キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968-2016年）◇

1968年、世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した冊子が初めて使用されました。

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1・4）
- 1969 自由への召し（ガラテヤ 5・13）
- 1970 わたしたちは神の同労者である（Iコリント 3・9）
- 1971 聖霊の交わり（IIコリント 13・13）
- 1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13・34）
- 1973 主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11・1）
- 1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2・1-13）
- 1975 すべてはキリストのもとに（エフェソ 1・3-10）
- 1976 わたしたちはまことの姿になるように召されている（Iヨハネ 3・2）
- 1977 ともに希望をもって屈せず（ローマ 5・1-5）
- 1978 もはや他人ではない（エフェソ 2・13-22）
- 1979 み栄えのため互いに仕えよう（Iペトロ 4・7-11）
- 1980 み国が来ますように（マタイ 6・10）
- 1981 一つの霊 多くの賜物 一つの体（Iコリント 12・3b-13）
- 1982 主こそわがやどり（詩編 84）
- 1983 イエス・キリストーこの世の生命（Iヨハネ 1・1-4）
- 1984 主の十字架は一致への道（Iコリント 2・2、コロサイ 1・20）
- 1985 キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2・4-7）
- 1986 我が証人となれ（使徒 1・6-8）
- 1987 キリストにあってともに新しく（IIコリント 5・17-6・4a）
- 1988 愛は恐れをとりのぞく（Iヨハネ 4・7-21）
- 1989 キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12・1-21）
- 1990 キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）
- 1991 すべての国よ、主を賛美せよ（詩編 117、ローマ 15・5-13）
- 1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい（マタイ 28・16-20）
- 1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5・22-23）
- 1994 神の家族・心も思いも一つにして（使徒 4・23-37）
- 1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15・1-17）

- 1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示 3・14-22）
- 1997 神と和解させていただきなさい（Ⅱコリント 5・16-21）
- 1998 “霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14-27）
- 1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示 21・3）
- 2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3-14）
- 2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）
- 2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6-10）
- 2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（Ⅱコリント 4・7）
- 2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）
- 2005 教会の土台であるキリスト（Ⅰコリント 3・1-23）
- 2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18-20）
- 2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにして下さる（マルコ 7・31-37）
- 2008 絶えず祈りなさい（Ⅰテサロニケ 5・(12a) 13b-18）
- 2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15-28）
- 2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）
- 2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに一つ（使徒 2・42参照）
- 2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（Ⅰコリント 15・51-58参照）
- 2013 神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6-8参照）
- 2014 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（Ⅰコリント 1・1-17）
- 2015 イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）
- 2016 主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて（一ペトロ 2・9参照）

<お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

日本キリスト教協議会

135-0016 東京都江東区東陽2-3-1 イトーピア東陽町216号
TEL 03-6666-8760 Fax 03-6666-8766
郵便振替 00180-4-75788 『日本キリスト教協議会』

カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内
TEL 03-5632-4445 Fax 03-5632-4465
郵便振替 00120-7-410103 『(宗)カトリック中央協議会委員会口』
(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)